

とっておきの熊野 ふるさとの伝説をめぐる旅

『楊枝薬師堂と三十三間堂棟木伝説』

熊野川が流れる静かな山あいには、楊枝薬師（頭痛山平癒寺）と呼ばれるお堂があります。お参りすると頭痛など首から上の病が治るといわれるこの楊枝薬師堂には、京都の三十三間堂にまつわるこんな伝説が存在します。

平安時代、後白河上皇は頭痛に苦しんでいました。上皇は自ら都の因幡堂に籠り、頭痛平癒を祈願していました。ある夜、薬師如来が現れ、「熊野川のほとりに高さ数十丈の大楊樹あり、この楊を切り都に大伽藍を建立し、かつ我が像を彫刻し、まつれば頭痛たちどころに、癒えよう」とお告げがありました。早速その大楊を切らせたが、あまりに長く大きいので動かすことも出来ませんでした。困り果てていたところ、不思議や水中から天女現われ出て、神力で軽々と京まで運ぶことが出来ました。そして大伽藍を建立しました。今にいう蓮花王院、即ち三十三間堂であります。

そして頭痛が平癒した上皇はその大楊の切り跡にお堂を建て、上皇直作の薬師如来を本尊にあがめ、頭痛山平癒寺と号されました。

（現地「楊枝薬師堂由来」から）



楊枝薬師堂（頭痛平癒寺）

なぜこの伝説が生まれたのでしょうか。古代の日本人は山、水、巨岩、巨木など自然を畏敬崇拝してきました。この熊野川のほとりに生えていたと言われる大きな楊やなぎの木も、神仏の宿る木として崇拝されていたのかもしれませんが。今回は語り継がれる伝説から、熊野を感じ取る旅に出かけます。

ご案内は川舟船頭をしながら今も残る熊野川の魅力を伝えている荘司健さんです。

楊枝薬師のまつりが行われるこの日、この伝説に思いをめぐらせてみましょう。当日は川舟で楊枝へと渡り、祈禱を求める方やお礼参りの方が大勢集まる楊枝薬師まつりに参加します。そして伝説の楊が運ばれたとされる熊野川を川舟で下ってゆきましょう。



お堂の扉には平癒を願い、五円玉や穴の開いた石、くしなどが吊るされている。

実施要領

■実施日

平成20年**3月17日（月）** 小雨決行（荒天の場合は中止します。）

■集合

12:00 請川公共トイレ前（国道168号沿い 和歌山県本宮町）

■行程

12:00 集合、オリエンテーション
12:10～12:30 熊野川を川舟で渡り、対岸の楊枝河原へ
12:30～13:00 河原で昼食、三十三間堂棟木伝説について説明
13:00～14:15 楊枝薬師まつり参加
14:15～16:30 川舟乗船、楊枝から下流部へ川下り
16:30～17:30 ミーティング後、集合場所まで移動
17:30ころ 解散
(多少時間が前後することがあります。ご了解下さい。)

■募集人数

7名様

(お申し込み多数の場合は、3月4日（火）に抽選で決めさせていただきます。
お二人以上で一緒に参加ご希望の場合は、グループで一人として抽選します。)

■お申込締め切り

3月3日（月） 必着

■参加費

4,600円

【舟代、ガイド料、傷害・賠償保険代、実施経費（現地調査費・通信費等）】

■持ち物

昼食、歩きやすい服装・靴、雨具、飲み物など

■ガイド

荘司 健氏（三重県南牟婁郡紀宝町）

■ご注意

この企画は紀南ツアーデザインセンターが地域づくりを目的に「三重・紀南エコツーリズム推進会」の協力を得て作成した学習プログラムです。希望者が自己責任において任意で参加していただきます。万一の事故などに対する補償は、加入する国内旅行保険の範囲内で行いますので、ご了解の上ご参加ください。

◇お申込み方法 [（参加申込書はこちら⇒）](#)

同封の申込書に必要事項をご記入の上、郵便、ファックスまたはEメールでお申込みください。ご参加をお待ちしています。